

明石市

国際協力海外レポート

山口 幸恵（やまぐち ゆきえ）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：ガーナ共和国 アッパー・イースト州ボルガタンガ市
職種：助産師
赴任期間：2016年9月～2018年9月（予定）



【自己紹介】

はじめまして。2016年2次隊で2016年9月から2年間、助産師としてガーナへ派遣中の山口幸恵といたします。

私は日本で看護大学卒業後、看護師として約4年勤務し、その後助産師学校へ進学、助産師として総合病院の周産期病棟で勤務をして、5年目に入る頃に青年海外協力隊に応募しました。幸い合格してJICAの技術補完研修や約2カ月の事前訓練研修を経て今に至ります。任期終了が迫っていますので、これから少しずつ整理して、ガーナのことや日々の生活、活動内容等を記していきます。皆様に少しでも伝えていけたら、何か感じていただけるものがあれば嬉しく思います。

【任地について】

私の配属先はガーナ北部にあるボルガタンガという場所です。人口はガーナ全体で2600万人(日本の1/5)のうち約15万人前後、首都アクラからバスで約16時間以上かかります。夜間移動は禁止されているため、タマレから空路を利用をすれば約5時間、陸路では2泊3日かかります。

気候は乾期(11月～3月)と雨期(4月～10月)があります。現在は乾期でハマターン(砂嵐)の季節です。平均気温は35℃で、乾期の猛暑時は40℃を超えます。湿度が低く乾燥しているため、暑さはありますが、比較的過ごしやすい環境です。ただ毎日ダストとの戦いで、掃除や洗濯は大変です。

名産物は、かごバックで、大量のかごバックが海外市場にも流れています。これは水草一つ一つから手作りで作られています。会社として設立された場所もありますが、村の女性グループが木の下に集まって作っている姿をよく目にします。後日任地の名産物として詳しく紹介したいと思います。

【ホームステイについて】

全ての隊員は配属先に赴任する前に、任地ホームステイプログラムが2週間あります。ホームステイ先で現地の方々と寝食を共にして生活をしました。私がホームステイした先は病院の師長さんのお宅で、一緒に勤務先についていくことが多かったのととても忙しい日々でした。しかし、一日の生活を共にすることで、生活習慣や食べ物、時間の使い方、過ごし方を知ることができました。生活や食事についてはまたの機会に記述したいと思います。

また、その間に現地語のフラフラ語も学びました。公用語は英語ですが、現地の方々は日常で現地語を話すことが多く、特に村集落へ行くとほぼ現地語になります。このホームステイ経験は後に自分ひとりで生活する上でも、活動する上でとても心強いものとなりました。

【配属先・要請・活動内容について】

ボルガタンガの保健局母子保健課に配属されています。メンバーは私と保健師、公衆衛生看護師です。スタッフは主に事務所で仕事をすることが多く、保健施設管理や地域保健データ管理、集計や中央研修やスタッフへの教育、健康啓発活動等を行っています。

私の要請内容は巡回型で、妊産婦健診、分娩管理、乳幼児健診の質の向上、家族計画、予防接種等の啓発活動で私で2代目となります。管轄地域が広いので、赴任して1カ月はスタッフへの挨拶も兼ねて、配属先での中央研修やワークショップのお手伝いをしました。

その後、州病院やヘルスセンターが慢性的な助産師不足であることを知り、主に現場での活動をしながら要請内容に応えることを重視しました。この地域には州病院が1施設、ヘルスセンターが9施設、CHPS(診療所)が32施設あります。

現在までの主な活動内容は、現地スタッフと共に働きながらフリップチャートなどの教育教材等、視覚的媒体を用いた妊産婦指導教育の普及、記録や検査漏れチェック、分娩や新生児ケアの補佐、乳幼児産後健診のケア、施設物品管理、学生教育などです。

昨年末で管轄下の州病院(周産期外来、病棟、手術室、新生児集中治療室)、ヘルスセンター、助産師が在中しているCHPS(診療所9施設)を全て巡回しました。その中で多くのスタッフの方々と接して話し合ったりすることで課題や問題点を把握することができ、少しずつではありますが良い方向へ変化してきています。

日本とは異なる環境、医療体制の中で戸惑うことも多いですが、同じ目標を持つ者同士、どんなときでもみんなが私を受け入れてくれているので救われています。

◇実践研修:左は各ヘルスセンターへスタッフを配置、対象者へ妊娠期からの母乳育児支援について指導。アセスメント用紙を用いてカウンセリング中。このように待合室は外が多い。右はプレゼンテーションやディスカッション中の写真。みんな積極的に手を挙げて意見を出す。いつも白熱して収拾がつかない。



◇妊婦健診:左写真は夫への分娩前教育。お産に必要な物品を説明している。妊産婦だけでなく、夫やパートナー、家族と一緒にいるときは必ず一緒に話すように促している。フリップチャートは前任が作成したものを継続使用中。右写真は待合場所にも配置し閲覧できるようにし、質問があれば対応を行っている。



◇生後まもなくの新生児。このようにみんな母親が持参した布に包まれる。病院では1日に10人以上生まれることもあり、診察ベットに隙間がないくらいである。



◇新生児健診。生後2日目、7日以内に実施。

この測りにベビーを寝かせる。

左のベビーは低出生体重児で、24時間後退院し生後2日目である。暑くてもみんなとてもたくましい！



◇乳幼児健診。アウトリーチ(巡回健診)

施設から遠方の場所の各地域にアウトリーチポイントが設定されており毎月実施されている。

体重測定器を左のように吊るすため、だいたい木の下で行う。



◇家族計画推進。現地 NGO とともにキットを使用してマーケットデーに啓発活動。

